

国語表現

平成31年度

東濃実業高等学校

対象クラス	第3学年 ビジネス管理科・ビジネス情報科の選択者	単位数	2
使用教科書	『国語表現』（京都書房）		
使用副教材	『常用国語便覧 改訂版』（浜島書店）『必携国語総合セミナー』（浜島書店）		

「国語表現」とはこんな科目です。

- ・高等学校卒業後、上級学校（四大・短大・専門学校）への進学を希望するみなさんが対象です。
- ・「書くこと（小論文）」に重点を置きながら、語彙・語句・表現方法などの知識を習得します。
- ・より実践的な課題（上級学校の過去問題）も発展的に取り入れ、「伝える力」をより高めます。また、その成果を相対的に認識するため、外部模試にも挑戦します。

科目の到達目標（目標とする検定等）

- ・言葉や表現の問題を取り上げ、「表現」への関心を深めよう。
- ・「表現」の基礎として必要な「考えること」の具体的な方法を身に付け、「自分の意見」をもとう。
- ・「自分の意見」をどのようにして「文章化（表現）」するかなどの、小論文の土台となる「表現法」を知ろう。
- ・多種多様な「表現法」を用いることで「表現の楽しさ」を味わい、将来の進路選択に生かそう。

評価の観点	評価規準・評価内容	評価方法等
関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	・授業の取り組みの様子 ・提出課題の提出状況 ・課題プリント
話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取りたり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	・授業の取り組みの様子 ・課題プリント ・進路資料室での取り組みの様子
書く能力	相手に目的、意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	・授業の取り組みの様子 ・課題プリント ・課題の提出
知識・理解	言葉の特徴や決まり、役割などについての理解を深め、知識を身に付けている。	・進路資料室での取り組みの様子 ・まとめの（単元）テスト

学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのか）

	単元名	学習内容	学習活動のねらい
前期中間	◆ステージ1 表現のイメージをつかむ	(一) 話すということ (二) 書くということ ・自己紹介文を書く	・話すとはどういうことかを知る。 ・書くとはどういうことかを知る。
	◆ステージ2 表現のスタイルを知る 【前期中間考査】	(一) 的確に話す (二) 記録・説明の文章を書く ・事実を書く (三) 意見文を書く	・的確に話すための基本技法を身に付ける。 ・正確かつ客観的に書くための基本技法を身に付ける。 ・他者の理解や共感を得ることのできる文章力を身に付ける。
前期期末	◆ステージ2(2) ◆ステージ3 表現のテクニックを磨く 【前期期末考査】	(四) 通信文を書く ・手紙・メールを書く (一) 調査したことを発表する	・通信コミュニケーションを確実にを行うための文章形式や表現力を身に付ける。 ・情報を収集・分析して発表する力を身に付ける。
後期中間	◆ステージ3(2) 【後期中間考査】	(二) 討論する一話し合う (三) 報告文の文章を書く ・調査結果の報告 (四) 小論文を書く ・テーマ、課題文、図表・データ	・合意形成や問題解決を図る討論・ディベート方法を知る。 ・他者に分かりやすく伝える方法を知る。 ・小論文に必要な総合的な表現力を培うとともに、より高度な表現技法を知る。
後期期末	◆ステージ4 表現のルーツを知る ◆ステージ5 創作者になろう 【学年末考査】	(一) 言葉の歴史・文章の変遷 (二) 日本語表現の特色と異文化 (一) 詩歌を作る (二) 随筆を書く (三) 小説を書く	・語彙や敬語表現、日本語と外国語などを通して、言葉というものを見つめ直す。 ・感動を効果的に伝える力や豊かな想像力を、実作を通して体験的に身に付ける。そしてその培った視点で、世の中の散文・韻文を客観的にとらえ直す。

